

平成 23 年度 第 1 回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 23 年 7 月 26 日(火) 19：00～21：00

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委員： 悴田委員、川勝委員、亀卦川委員、齊藤委員、椎名（豊）委員長、椎名（裕）委員、高垣委員、嶽山委員、寺村委員、久富委員、降旗委員、馬瀬委員
- 2 理事者： 北川穰一昭島市長
- 3 事務局： 村野環境部長、山口環境課長、指田係長、吉村係長、岩波係長、秋山主事
- 4 コンサルタント会社： 鈴木
- 5 傍聴者： 1 名

〔議事要旨〕

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 正副会長選出

（事務局から選任は委員の互選によるとの説明をし、委員に諮ったところ
寺村委員からの案により、会長に椎名委員、副会長に嶽山委員の推薦があった。）

○事務局

異議が無ければ寺村委員の案で決定したいが如何か。

○委員一同

異議なし

（会長・副会長挨拶）

- 6 市長より「昭島市環境基本計画」の改定に関して環境審議会会長に諮問
（市長退席）

- 7 議題

- （１）環境基本計画の改定について
- （２）改定版策定の進め方について
- （３）「昭島市の環境」について

- 8 その他

- 9 閉会

〔配布資料〕

- | | |
|------|--------------------------|
| 資料 1 | 昭島市環境基本計画改定（第 1 章、第 2 章） |
| 資料 2 | 「昭島市環境基本計画改定版」策定の進め方について |
| 資料 3 | 「昭島市の環境」について |
| 参考資料 | 温室効果ガス排出量の昭島市と他市区町村との比較 |

〔発言要旨〕

（１）環境基本計画の改定について

久富委員：参考資料の３ページに昭島市と同規模自治体の部門別温室効果ガス排出量が掲載されているが、一人当たり排出量で比較分析してみると、実態が良くわかるのではないかな。そのような分析をすることは可能かな。

会 長：確かにそのような分析を加えることで、温室効果ガス排出量の実態が分り易くなるように思うが、他都市のデータ分析も必要になる中で、そのような分析を実施できるだろうか。

事務局：他都市と比較可能なデータを入手し、部門別の一人当たり排出量等の詳細分析を検討してみる。

久富委員：資料１の２０ページに昭島市のごみ排出総量が掲載されており、減少傾向を示している。総量だけではその傾向分析ができないので、内訳が分かると良いのではないかな。

事務局：資料１は、「第三次昭島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」から転載しているものであり、同計画では廃棄物の内訳も分析しているので、後ほど委員にお示しする。

（２）「昭島市環境基本計画改定版」策定の進め方について

降旗委員：「子供向け環境学習講座ワークショップ（１回）」が掲載されているが、環境教育という視点からみたら１回は少ない。学校教育等での検討はしているのか。

事務局：「子供向け環境学習講座ワークショップ」は、全４回講座のワークショップである。このうち環境基本計画に係る講座が１回含まれているため、資料２では１回分のみ掲載した。

会 長：参加実績はどの程度かな。

事務局：「子供向け環境学習講座ワークショップ」は、今夏だけ実施するもので、様々な広報で参加募集し、２０名程度が参加している。

降旗委員：希望者を募る参加方式としては２０名程度でも良いのかも知れないが、学校教育の中で全ての子供たちが環境問題について取り組んでいくなどの積極的な教育を実施することはできないかな。

会 長：委員のご意見は重要なことである。事務局から、資料１の説明の中で「環境の将来像に基づき５つの基本目標を設定し、具体的な方策を検討する。」という説明があった。基本目標の５番目の項目は、「環境を学びみんなで取り組むまち」であり、環境学習を推進することになっている。本会での審議の中で環境教育を拡充すべきという方向性を出していけば良いのではないかな。

川勝委員：長年、昭島市の環境に触れる機会を提供してきた。やはり、多くの人に昭島市の環境特に自然に触れる機会を増やしていきたいと考えている。

（３）「昭島市の環境」について

会 長：資料１で緑環境や廃棄物等については十分検討され、計画が策定されている。重点施策としては「地球温暖化対策」を挙げている。昭島市は法的義務はないが、こんな時代でもあり、市としては一歩踏み込み市民・事業者にも地球温暖化対策への協力を呼び掛け、取り組みを進めていくということである。

何を重点領域にするのかは、平成２２年度の進捗状況を見てから検討を進めていくこ

とになるが、全４回で十分に検討し意見を収束できるのか、パブコメはどうなるのか、進め方には日程的に多少無理な点もあるが、年度内業務なので仕方ない面もある。

事務局：平成２２年度の「昭島市の環境」については、次回審議会でご審議頂き、その結果を踏まえて１２月には公表していきたいと考えている。現在、これまでの１０年間の施策事業の評価・分析を行っており、次回審議会でご審議頂きたいと思う。ここでは、関係各課を対象にヒアリング調査も実施し、進捗状況だけでなく分析することを検討している。

亀卦川委員：今回の検討の柱の一つとして「地球温暖化対策」を挙げていることは重要性に鑑み、よく理解できる。同時に３月１１日の大震災後、日本のエネルギー事情が変わらざるを得ない状況にもある。温室効果ガスの排出抑制も重要だが、エネルギー使用量の削減も同程度に重要であり、その意味ではエネルギー使用量レベルでの調査分析も重要ではないか。加えて、温室効果ガスの排出係数がこれから大きく変わるので、温室効果ガスだけで比較するのではなく、エネルギー削減という軸で地球温暖化対策を考えてもいいのではないだろうか？

事務局：ご指摘のとおりである。温室効果ガス排出量の削減は、エネルギー使用量の削減にもつながるので、温室効果ガスの削減とエネルギー使用量の削減の二面的な掲載を検討していきたい。

会長：法律的には、エネルギー使用量削減を目標としても良いのか。良ければ「昭島ルール」として２つの目標を掲げると独自性も強くなるのかも知れない。

事務局：地球温暖化対策の推進に関する法律では、温室効果ガス排出量の抑制が目標となる。

齊藤委員：昨年度、羽村市の環境審議会の委員をやっていた。大震災があったため委員会最終日には参加できなかったが、審議会座長は、こんな時期に会をまとめるのは難しいと言っていた。結果として、市は計画をまとめたが。

確かに今は温室効果ガス削減の計画をまとめるのは難しい時期。エネルギー使用量の削減にも目を向けるべき。特に公共施設が増える際に、どのような評価基準を持っているのか、評価すべきか、考えていく必要がある。

会長：公共施設の新設計画で地球温暖化対策・省エネを考えていくのは「隗より始めよ」という意味で良いのかも知れない。

３月１１日前の時代とは明らかに変わっている。各種の「前提」が動いているという認識で議論していく必要がある。

久富委員：白熱灯をＬＥＤに替えるのは良いが、蛍光灯をＬＥＤに替えるには時期尚早。もう少し経てば価格も下がるので、地球温暖化対策・省エネ対策の実施タイミングとともに、経済的にいつ何をすべきかも重要である。

会長：現在は技術革新の途上にある、ということだと思う。実施のタイミングは良く考えるとしても、何もしなくても良いわけではないので、啓発活動は実施していかなければならないだろう。

（４）その他

次回日程の案内。おおむね１０月上旬。後日、日程調整後事務局から連絡する。

以上